

外国語学部 英語英文学科

教育研究上の目的

英語英文学科は、英語の実践的な運用能力を高め、英語圏の言語・文化・社会・歴史などについての理解を深めるとともに、異文化間の相互理解・文化交流、多文化共生に尽力し得る国際的な教養を身に付けた人材の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本学科の教育研究上の目的等を踏まえ、外国語学部英語英文学科では、異文化間の相互理解と経済・文化交流の促進、また英語教育において活躍できる人材を育成するために、初年次教育、キャリア教育、教養教育と関連させた段階的・体系的なコミュニケーション重視の課程を編成し、4年間の学修を通じて新たな知識を得て教養を深め、自己表現のツールとして英語を使えるようになるための高い英語運用能力を涵養します。

本学科が展開する専門教育では、英語学、英語教育、英語圏文学、英語圏文化の4領域を網羅した課程に基づき、英語圏の言語・文化・社会・歴史について深く理解するとともに、言語や文化の多様性と普遍性についての見識を高めます。また、少人数によるゼミナールを通して、情報リテラシーとプレゼンテーション能力を高め、国際化の環境の中で学びの成果を総合して様々な課題に取り組み、自らの考えを発信することができる能力を涵養します。

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

本学科のカリキュラム(全学共通の教養・外国語科目を含む)において、所定の卒業要件単位を修得した者は、次に掲げる能力や知識・教養を身につけていると判断し、学士(文学)の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

- (1) グローバルな経済活動や国際協力の現場で起きうる問題を概念化し、バックグラウンドの異なる人々たちをつなぐ力
- (2) 外国語も含めて情報を収集し、客観的な分析をおこなって、批判的思考を土台に知見を発信する力
- (3) 獲得した知識を用いて計画を立案・遂行し、経験から学んで成長できる力

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

- (1) 国際共通語としての英語の高度な運用力
- (2) 文化や価値観の多様性を受容しつつ、自己のアイデンティティの背景文化を理解して発信する力
- (3) 英語以外の外国語の基本的なコミュニケーション力

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

- (1) 人類の普遍性と多様性を考える土台となる多文化理解力
- (2) 英語、異文化間交流、英語教育、英語学、英語圏文学・文化等の知識を自律的に習得していく力
- (3) 身につけた専門知識を実践的に運用・展開していく力

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

本学科は、高度な英語運用能力を身につけ、英語という言語への理解を深め、英語圏の文化・社会・歴史等についての専門的知識が修得できるように、以下に示した方針で学修・教育課程を編成しています。

1. 教育課程の編成・実施

- (1) IES と GEC の2つのプログラムを設置する。
- (2) 1 年次では少人数・習熟度別・オールイングリッシュの FYE(First-Year English)の授業を通して、基礎的な英語コミュニケーション能力を養成する。全学施設の Language Commons との連携を密におこない、課外学習も充実させる。
- (3) IES プログラムの2年次では、少人数・習熟度別・オールイングリッシュの SYE(Second-Year English)の授業を通して、応用的な英語コミュニケーション能力を養成する。3、4年次では、英語力のさらなる向上を図る一方で、言語コミュニケーション、英語教育、英語圏文学、英語圏文化の各領域の講義・演習科目で専門的知識を身につける。4 年間の在学期間で長期・短期の留学に行くことができるよう学科・学部・大学のプログラムと連携する。
- (4) GEC プログラムの学科設置科目はオールイングリッシュである。2 年次前学期での留学を必修とし、異文化の中で実践的な学修をおこなう。2 年次後学期以降は、英語力のさらなる向上を図る一方で、Global Communication、Global Culture、World Literature の各領域を選択して専門的知識を身につける。学科・学部・大学の留学プログラムに新たに参加することも可能である。
- (5) 1年次「FYS」、2 年次「Research & Presentation」(IES) / 「Introductory Seminar」(GEC)、3 年次「専門研究」(IES)「Advanced Seminar」(GEC)、4 年次「卒業論文」(IES) / 「Graduation Project」(GEC)を通して少人数教育を徹底し、ゼミナール形式で学生が自らのテーマについて研究を深める。
- (6) 英語以外の外国語を学び、異文化理解を深める。
- (7) 英語英文学科の共通科目、外国語学部共通科目、国際日本学部との共通科目、全学共通の教養・外国語科目を幅広く学ぶことを可能とし、国際的な視野と教養を育てる。
- (8) IES プログラムでは、本学の教職課程カリキュラムと連動し、さらに学科として教員養成に資する独自の科目や2年次から3年計画で指導する「英語教員養成特修ゼミ」を設置し、段階的・体系的な学修を通じて少人数での理論と実践両面での英語教員養成をおこない、中高教諭一種免許状(英語)の取得を可能とする。

2. 教育の方法と評価

- (1) 1・2年次の専門基礎科目群は英語運用能力の向上と専門科目の土台形成を主な目的とする。英語科目はコーディネーターを中心にクラス共通の到達目標と成績評価の基準を定め、共有する。
- (2) 1年次の「FYS」から4年次まで、少人数のゼミナール形式の科目を配置し、プレゼンテーションや議論を重視して、学生の課題発見能力、思考力、発信力、実践力を培う。3、4年次の「専門研究／卒業論文」(IES)、「Advanced Seminar／Graduation Project」(GEC)では、原則として同一教員が継続して少人数編成の指導を行い、個々の興味関心に従った学修の集大成に向かわせる。レポート、卒業論文、Graduation Project の指導にあたっては「英語英文学科 レポート・卒業論文作成に関するルーブリック」を活用する。
- (3) 単位制度の実質化を図るため、成績評価の方法及び基準を明確化し、厳格に成績評価を行う。次年度方針は講師打ち合わせ会で周知・共有する。

アドミッション・ポリシー(入学受入の方針)

1. 大学教育によって培う能力

- (1) 本学科は、文化の多様性を受容し、世界の人々と問題解決に向けて協働することができる柔軟な思考力、英語の実践的な運用能力、異文化コミュニケーション能力、国際化が進む社会で求められ活用できる専門的知識、技能と幅広い教養を備えた人材を育成します。

2. 本学科が求める入学者

- (1) 英語等の基礎学力を有し、英語という言葉についてより深い知識とより高い技能の獲得をめざし

ている人

- (2)英語圏の文化・社会・歴史等に関心を持ち、異なる言語や文化背景を持つ人々と国際的な交流を深めたいと思っている人
- (3)将来、英語によるコミュニケーション能力を生かして社会に貢献したいと願っている人
- (4)国際的な感性と幅広い教養を身につけたいと思っている人

3. 高校までの能力に対する評価(選抜方法)

本学科では多様な入学試験を実施することにより、高等学校までの学習を通じて大学での学びに必要な基礎学力を身に付けた、次のような学生を受け入れます。

- (1)英語圏をはじめとした世界の様々な文化や価値観の違いについて探究思索することに関心を持つ人
- (2)さまざまな人々と協働して社会貢献しようという自主性を持つ人
- (3)そのために必要な英語の高度なコミュニケーション能力の習得に対して強い意欲と積極性のある人